

編集後記

3月11日の東日本大震災の発生から既に3カ月が経ちましたが、東京電力福島第一原子力発電所の事故処理の問題は依然として予断を許さない状況であります。また、東北三県（宮城県、岩手県、福島県）を中心とした復興再建についても道半ばであり、首都圏にとりましても、これから夏に向かったの節電対策・放射能汚染問題等色々な問題が山積している状況が一日も早く解決されますよう期待しております。

さて、話は変わりますが、台湾側の代表機関であります駐日台北経済文化代表事務所が日本人の20歳から69歳までの男女1,000人に対し5月に実施しました「台湾に対する意識調査」についてですが、調査結果から、日本人は台湾に対して67%の人が身近に感じており、8割の人が台湾を信頼しているとの回答がありました。この調査の設問のうち、日本と台湾との各種交流を行っております交流協会で事業に携わる者にとりまして、特に関心がありましたのは、「あなたは日本と台湾が特に力を入れて行うべき交流分野は何だと思えますか」という質問でした。

その調査結果、第1位は、(観光)で74%でした。第2位は、(経済)・(文化)で60%でした。第4位は、(青少年交流)で41%でした。

この数字から、当協会が毎年実施しております「青少年交流」(高校生、大学生、大学院生の招聘及び派遣)を今後とも充実したものにして実施して行くことの重要性を改めて感じたところであります。

本誌「交流」で取り上げた、青少年交流事業でそれぞれ招聘・派遣した日本及び台湾の高校生、大学生、大学院生のいずれもが異口同音に日本及び台湾の一般家庭で過ごしたホームステイの1泊2日が全体の訪問日程(10日間前後)の中で特に印象深かく機会があれば是非また訪問したいと本誌に希望を書いております。

次代を担う青少年がお互いの交流を通じ、親日派及び親台派の若者が今後益々増え、日本と台湾との架け橋となり相互理解が進むとともに一層日本と台湾との心と心の距離が近くなることを望みます。

(総務部 藤本 徳司)